

※当時の状況と朝鮮進駐軍について

「朝鮮進駐軍」。この言葉を聞くと、終戦直後の日本国内に在日朝鮮人達による軍隊が存在していたかのような印象を受けますが、実際には朝鮮人による愚連隊などの不逞朝鮮人達の集団を総称して指す言葉です。

彼らは自分達の事を「戦勝国民」と自称し、旧日本軍の小銃や拳銃などの武器を不法に手に入れて、戦災で焼け野原となった主要都市の一等地を日本人から奪い、裕福な家に押し入って強盗を働き、農家の作物や牧場の家畜を略奪して闇市で売りさばき、昼日中から女性を強姦し、自分達の意向に逆らったり気に食わない日本人を殺害し、捕まった仲間を取り戻すために警察署を襲ったりするなどの数々の犯罪を働きました。その被害の規模は、「GHQの資料によると約4千人もの日本人が殺害された」という説が有ります。

では『朝鮮進駐軍』という呼称は、どこから生まれたのでしょうか？ これには色々な説が有ります。例えば日本人が朝鮮人に対して差別的な意味合いで、この言葉を使いだしたというものです。

しかし、これは明らかな間違いだと思われまます。当時、「進駐軍」とはダグラス・マッカーサーが率いたGHQを含む「占領軍」を指しています。この進駐軍は、敗戦国の日本政府よりも実質的な立場は上位に有りました。それ故に同じ敗戦国民であり、日本に併合されていた民族の朝鮮人に対して、当時の日本人が「進駐軍」という言葉を使うわけがなく。当時の新聞や雑誌などを見ても「不逞朝鮮人」や「朝鮮人愚連隊」などのような言葉を使っています。即ち、当時の日本人は世間一般的に「朝鮮進駐軍」という言葉は使っていなかったという事です。

ならばどこからこの言葉が出て来たのでしょうか？ この疑問に答える最も有力な説は、当時の朝鮮人自らが使いだしたのではないかというものです。

終戦後、1945年(昭和20年)8月30日、日本はダグラス・マッカーサーを総司令官とするGHQ(連合国最高司令官総司令部)の支配下に置かれました。そしてGHQは日本の国体を破壊し、日本人を変えるために、戦争に対する贖罪(しよくざい)思想を植え込む為の「WG I P(ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム)」や報道を統制する為の「プレスコード」、そして政治家や公務員の「公職追放」などの様々な政策を進めました。

そして非武装化の政策の下、軍隊のみならず警察の拳銃さえも奪われて、警棒のみの状態にされました。これは占領軍側が、日本人からの銃器による攻撃を未然に防ぐためにとった措置とも考えられていますが、実はここにもう一つの意図が隠されていたと言われています。

それは『デバイド・アンド・ルール』といわれるものです。これを日本語に訳すと『分断統治』という意味に成ります。この分断統治といわれるモノは、戦前に白人達が、自分達が支配する植民地に対して行っていた政策で、支配下にある民族や部族同士をお互いに対立させて争わせる事によって統治していくという方法です。この政策の主な利点は次に挙げるものです。

- ①各民族や部族が対立しているために、白人に対して団結して反逆する事ができにくい。
- ②各民族や部族が争えば、力が相殺・消耗されて白人に対して反逆する力が弱まる。
- ③敵対している民族や部族へ憎悪が向けられるので、白人への憎悪が弱まる。
- ④対立の状況を維持するために、少数派で弱い立場の民族や部族を援助して恩を売り、白人側に取り込んで、多数派の民族や部族を牽制・支配するのに利用できる。
- ⑤民族や部族間の争いの仲裁に入る事で、白人による統治が必要であると思込ませる事ができる。
- ⑥上記の⑤を永く続けることで、白人による統治が当たり前だという意識を植え付ける事ができる。

この『デバイド・アンド・ルール』の政策に有る、統治する白人をGHQに、また、対立させる民族・部族を日本人と朝鮮人と台湾人に置き換えたモノこそが『朝鮮進駐軍』が生まれた主たる要因であったと思われまゝ。即ち、少数派の朝鮮人や台湾人を利用する事で、日本人からの憎悪をこちらへ向かわせておき、GHQによる支配を容易にさせるという事です。

そして上記の事を実現させるために、以下の事がGHQによって実施された可能性が有ります。

- (1)、GHQが日本国内で圧倒的な存在である日本人の力を弱めるために、治安維持力である警察から銃器を奪い、騒乱などの争い事を起きやすくする。
- (2)、GHQが、少数派であった朝鮮人達に、旧日本軍の銃器を持てるように密かに取り計らい、日本人側以上の力を持たせるようにする。(朝鮮人達が旧日本軍の武器庫を襲い小銃や拳銃を手にしたのには、日本共産党の手引きによるものという説も有ります。終戦直後には日本共産党はGHQとも繋がりが有りました)
- (3)、民族間の対立を生むために、GHQが朝鮮人側へ「日本人に対する、ある程度の犯罪は大目に見る」と伝える。

上記の(3)については、あくまでも推測です。しかし、初期の朝鮮進駐軍は、日本人への犯罪を繰り返す一方で、占領軍へは殆んど手出しをしていません。それどころか、GHQのMP(ミリタリーポリス、憲兵)が乗り出してくると急に大人しく成ったという事例が多くあります。

このように「デバイド・アンド・ルール」を利用したGHQによる支配は、当初は上手く行きそうな感じでしたが、何せ相手は朝鮮人です。調子に乗って増長して行き。GHQの予想よりも凶悪かつ粗暴に成りました。

そして、共産主義者や北朝鮮との関係を深めて行く事で、占領軍の兵士とも徐々に揉め事を起こし始め、遂には1948年(昭和23年)4月の阪神教育事件の際には、占領軍や警察との銃撃戦まで展開し、武力的な鎮圧を受けるまでに成りました。

しかしそれまでの約三年もの間、朝鮮人達による犯罪と日本人への被害はGHQへ逐次報告されていたのにも関わらず、朝鮮人達を取り締まるための占領軍による組織的な行動はなされていません。これらの事を考えれば、GHQと朝鮮人内部の人達との間に何らかの密約的な物が有ったと考えるのも的外れとは思えません。

このようにGHQから密かに後押しされた朝鮮人達が、「ウリ達はGHQの後ろ盾を得たニダ！→ウリ達はGHQ側ニダ！→ウリ達は戦勝国人ニダ！→ウリ達は敗戦国の日本人より偉いニダ！→ウリ達は進駐軍ニダ！ホルホル・・・」というように、お得意のホルホル思考を發揮した結果、日本人に対して自分たちの優位性を示すために、自ら『朝鮮進駐軍』という呼称を始めたのではないかと考えるのが妥当だと思います。

そうであれば、

- ・終戦直後の警察は、なぜ治安を維持できなかったのか？
- ・終戦直後の日本で、何故あれほど朝鮮人達が暴れまわったのか？
- ・その原因は、ただ単に日本人への反感や粗暴な民族性によるものなのか？
- ・当時の日本には、占領軍という強力な軍隊がいたのに、何故あれほどの期間を暴れ続ける事ができたのか？

などの疑問が解けるのではないのでしょうか。

因みに、この朝鮮進駐軍に対応するために日本の警察が拳銃を持てるようになったのは、1946年1月16日、連合軍最高司令官総司令部から「日本警察官の武装に関する覚書」が出され、拳銃により武装できることが明文化されてからです。

これは時期的にはかなり早い対応であったのですが、当時は地域によるバラつきはあるものの6名に1丁程度しか装備されていませんでした。

その3年後の1949年(昭和24年)6月30日に福島県で起きた「平(たいら)事件」(犯行者数 不明/逮捕・検挙者数231人)では、平警察署の拳銃の保有率は15人に1丁であったと伝えられています。これでは各自が小銃や拳銃、日本刀などで武装した朝鮮人達に勝てるわけがありません。これら武装した朝鮮人達を日本の警察が鎮圧するには、占領軍のMPや他県からの警官の応援を受けなければなりません。

その後、全国全ての警察官への拳銃装備が完了したのは、終戦から6年後の1951年(昭和26年)だったとされています。

そして朝鮮人による犯罪や暴動に対して手を焼いていた日本政府は、1949年(昭和24年)に吉田茂首相が動きの鈍い連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥に対して、送還費用は日本政府が負担するとして「在日朝鮮人の全員送還を望む」と題する朝鮮人送還を求める嘆願書を提出しています。

※「在日朝鮮人に対する措置」文書に書かれている吉田茂総理の在日朝鮮人に対する見解。

彼らは総数が100万人にちかく、その半数は「不法入国」。すべての朝鮮人がその母国たる半島に帰還するよう期待する。その理由は次の通り。

- 現在および将来の食糧事情からみて、余分な人口の維持は不可能。
- 大多数の朝鮮人は、日本経済の復興に全く貢献していない。
- さらに悪いことには、朝鮮人の中で 犯罪分子が大きな割合を占めている。
- 彼らは日本の経済法令の常習的違反者であります。多くは共産主義者ならびにそのシンパで、最も悪辣(あくらつ)な政治犯罪を犯す傾向が強く、常時7000名以上が獄中にいるという状態である。

この嘆願書提出の後の1959年(昭和34年)12月から数回の中断を含み、昭和59年まで日本政府は、在日朝鮮人とその家族を日本から北朝鮮へ集団的に永住帰国させる帰還事業を行いました。(但し、昭和42年12月の第155次の帰還船で実質的な事業は終了)

そして戦後、あれだけ暴れまわった朝鮮人の愚連隊『朝鮮進駐軍』も、阪神教育事件以降のGHQの方針転換や朝鮮戦争の勃発などにより、韓国の在日本大韓国民団系と北朝鮮の在日本朝鮮人連盟系に分裂して抗争を始めました。

そして日本人の土地を奪ったり、盗んだ品物を闇市で売りさばいて富を蓄えた朝鮮人達は、やがてその資金を基に、パチンコやその他の事業を始めて経済的な活動に進出しました。

また、日本共産党や社会党と結びつき、政治的な活動で特権的な権利の獲得や反日活動を行うようになりました。

以上が『朝鮮進駐軍』に関わる簡単な説明でした。では次に最初に紹介した朝鮮進駐軍による66件の集団犯罪の内容を紹介して行きたいと思います。